



菅波 茂

AMDAは緊急人道援助を世界中で実施してきているが、第二次世界大戦の出来事が歴史になっていないことをしばしば美感させられている。

95年のサハリン大地震では、被災者支援のために岡山空港から県民の善意である救援物資を満載した救援機を送り、サハリンのテレビで紹介された。「AMDAの救援活動のおかげで、戦後初めて、私たちは胸を張って歩けます」と在サハリンの日本人の方々から感謝された。日本人はロシア人、朝鮮人に次ぐ3等市民の位置付けであった。98年のパプアニューギニアの津波被災者救援活動報道により、名古屋の遺族会の方から電話がかかってきた。「私たちの部隊は津波による被災現場を敗走した。生存率は15%

に過ぎない。語り部がいなくなる。この事実が歴史から埋没することに耐えられない。資料を送るから伝え続けてほしい」と。県ビルマ会の人たちからは、ミャンマーで敗走した日本兵の悲劇を聞かせていただきたい。

AMDAの名譽顧問であり、元フィリピン医師会長である中国系フィリピン人のプリミティボ・チュア先生からは、5歳の時に経験されたマニラ市街戦に巻き込まれた市民の悲惨さを教えていただいた。AMDAの支部はフィリピンだけでなく、インドネシア、ベトナム、カンボジアなど第二次世界大戦に巻き込まれた国々にある。AMDAの会員に関係者が多数いる事実が分かった。

プリミティボ・チュア先生からAMDAの人権と平和の定義を基軸としたAMD A「魂と医療」プログラムが

## AMDA「魂と医療」プログラム

提唱された。AMDAの人権の定義とは存在を認めることである。具体的には「あなたを忘れていません。あなたに関心があります。あなたを必要としています」である。

究極の問いは「死者に人権有りや」とある。AMDAの平和の定義は「今日の家族の生活と明日の家族の希望が実現できる状況」である。家族の生活とは食べられて健康であること。希望とは子どもに教育を受けさせることである。この平和を阻害する要因として戦争、災害、そして貧困がある。AMDA「魂と医療」プログラムの内容は「死者の人権については魂の永遠性を専門とする聖職者による合同慰霊祭を、戦争に巻き込まれた人たちの家族にはAMDAによる

平和の恩恵を」である。00年からAMDA「魂と医療」プログラムの慰霊祭が開

始された。ミャンマー、ベトナム、カンボジア、フィリピン、インドネシアで日本と現地の宗教者によって第二次世界大戦の犠牲者への祈りがささげられた。以来、これまで毎年このプログラムが実施され、サハリン、パプアニューギニア、サイパン等での慰霊も加え、参加者は現地の方々を含め2000人を超える。

今後AMDAはこのプログラムを通じて犠牲者の魂の冥福を祈り続けていく。AMDAによる医療プログラムはアジア各地で実施されている。しかし、第二次世界大戦による多数の死者が出た地域に焦点をあてた医療プログラムの展開はまだ不十分である。戦争が歴史になるには3代100年間が必要である。関係者の方々と密接な協力関係の下に少しずつでもAMDA「魂と医療」プログラムを拡充していきたい。

(アジア医師連絡協議会代表)

—題字は筆者